

令和

7

年度

事業者番号

0251

事業所番号

025101

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	シチズン所沢事業所		
事業所所在地	市区町村	所沢市	
	字・地番	大字下富 8 4 0 番地	
産業分類名（中分類）	32 その他の製造業		
分類番号（中分類）	32		
事業活動の概要	事業内容	各種時計類及びその部分品の製造 従業員数：404名	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とします。				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要		排出可能上限量(計画期間合計)	59,396	t-CO ₂	事業所区分 第2区分	
		削減目標量(計画期間合計)	14,849	t-CO ₂		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を48%以上とします。				
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,892	5,143	5,006	4,831	4,901

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂		9,625	10,121	2,152	1,962	2,049
	前 年 度 比（％）	—	5.2	-78.7	-8.8	4.4
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源CO ₂					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ふ っ 化 い お う					
	三 ふ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		9,625	10,121	2,152	1,962	2,049

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算（t-CO₂/指標）

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位		0.3654	0.3842	0.0817	0.0745	0.0778
前 年 度 比（％）		—	5.2	-78.7	-8.8	4.4
活 動 規 模 の 指 標 単 位						
延床面積		26,344.34	26,344.34	26,344.34	26,344.34	26,344.34
m2						

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	下記の理由により、CO ₂ 排出量が減少したと考えられる。 ・高効率熱源機器の更新（吸収式冷凍機 → モジュールチラー）により、ガス使用量が前年比20%減少。 ・コロナ禍における会社を取り巻く環境の変化に対応し、生産調整、一時帰休を実施したため。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	下記の理由により、CO ₂ 排出量が増加したと考えられる。 ・一昨年度のコロナ禍における、生産調整、一時帰休が無くなり、稼働日が通常通りに戻ったため。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	・令和4年4月より、再エネ由来の電力を導入したため、温室効果ガス排出量が大きく減少した。 ・電気代やガス代が高騰したため、従業員に対して積極的に省エネ活動を推奨した。空調温度の設定見直しや昼休みの照明消灯など。その結果、都市ガス使用量が4.3%削減、電気使用量が2.2%削減となった。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	・令和4年4月より、再エネ由来の電力を導入した。令和5年度は大きな活動がなく、各職場での省エネ活動が主な活動であった。 ・電気代やガス代が高騰したため、従業員に対して積極的に省エネ活動を推奨した。空調温度の設定見直しや昼休みの照明消灯など。その結果、都市ガス使用量が8.8%削減、電気使用量が2.0%削減となった。					
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	・令和4年4月より、再エネ由来の電力を導入した。又、令和6年度中に所内の全ての照明設備に対しLED化100%を達成した。 ・引き続き従業員に対して空調温度の設定見直しや昼休みの照明消灯など積極的に省エネ活動を推奨したが、近年の地球温暖化による急激な気温変化等の影響もあり、都市ガス使用量が4.5%増加、電気使用量が0.7%増加となった。 ・エネルギー起源CO ₂ が前年比4.4%増加した主要因のひとつとして、令和6年度の急激な気温変動などに対応する為、所内のボイラー設備の稼働率が上昇した。					

3－2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	14,849	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量（t-CO ₂ /年）
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	14,849	14,849	14,849	14,849	14,849	74,245
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						59,396
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						14,849
実績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	9,625	10,121	2,152	1,962	2,049	25,909
	削減率 (F = (A - E) / A)	35.18%	31.84%	85.51%	86.79%	86.20%	—
	排出削減量 (G = A - E)	5,224	4,728	12,697	12,887	12,800	48,336
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	実施済	未実施	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率熱源機器改修（8号館） 吸収式冷凍機 → モジュールチラー	R2	R2	513.0
2	330200		空気調和設備・換気設備 33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	高効率熱源機器改修（1号館） 吸収式冷凍機 → モジュールチラー	R7以降		
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

1. ISO14001の取得

シチズングループでは、国内海外の生産拠点でのISO14001 EMSの認証取得を推進しています。国内では販売会社等を除く12社すべてで、海外では13生産拠点のうち12拠点で認証取得しています。また、国内においてISO14001グループ統一認証を取得し、継続してグループ全体での活動の最適化や環境ガバナンスを強化しています。

2. 温室効果ガスのスコープ3排出量を算定

温室効果ガス排出量の削減においては、自社の製造段階だけでなく、間接的に排出するサプライチェーン全体での温室効果ガス排出量（スコープ3）の把握が重要です。そこで、2024年度のシチズングループ全ての事業での温室効果ガス排出量の算定を行いました。算定の結果、間接的に排出するサプライチェーン全体での温室効果ガス排出量は約120万トンとなりました。このうち「購入した製品・サービス」（カテゴリ1）は全体の52%と最も大きく、それに次いで「販売した製品の使用」（カテゴリ11）38%で、これら合わせると全体の約90%になりました。

2024年度は、スコープ3削減目標（SBT）の達成に向けて、サプライチェーン全体での排出量削減を目指し、お取引先との密なコミュニケーションを開始しています。

・シチズングループの中長期的な企業価値および企業姿勢や事業の方向性について、ステークホルダーの皆さまにわかりやすくお伝えすることを目的に「CITIZEN REPORT」を発行しています。

https://www.citizen.co.jp/ir/integrated_report.html